

船舶事故等調査報告書

平成24年8月30日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2012那第11号	
事故等種類	衝突（岸壁）	
発生日時	平成23年12月22日 16時00分ごろ	
発生場所	鹿児島県和泊町 ^{わどまり} 和泊港 和泊港導灯（前灯）から真方位091°480m付近 （概位 北緯27°23.9′ 東経128°39.9′）	
事故等調査の経過	平成24年2月23日、本事故の調査を担当する主管調査官（那覇事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報		
船種船名、総トン数	貨物フェリー 第三南海丸 ^{なんかい} 、1,505トン	
船舶番号、船舶所有者等	134533、共同フェリー運輸株式会社	
乗組員等に関する情報	船長、三級海技士（航海）	
死傷者等	なし	
損傷	ランプドアの先端部に亀裂	
事故等の経過	本船は、船長ほか8人が乗り組み、和泊港旧岸壁に着岸作業中、船体後部のランプドアを降ろし始めていたが、港内に回り込んだうねりの影響で船体が動揺してランプドアが上下動し、平成23年12月22日16時00分ごろランプドアの先端部が岸壁に接触した。	
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 北北西、風力 6 海象：潮汐 高潮時	
その他の事項	水路誌（九州沿岸）には、和泊港は、北から西寄りの風のときでも強吹するときは、うねりが回り込んで港内に侵入する旨が記載されている。	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	なし なし あり 本船は、和泊港に着岸作業中、降下途中のランプドアがうねりの影響で上下動したことから、ランプドアの先端部が岸壁に接触したものと考えられる。
原因	本事故は、本船が、和泊港に着岸作業中、降下途中のランプドアがうねりの影響で上下動したため、ランプドアの先端部が岸壁に接触したことにより発生したものと考えられる。	